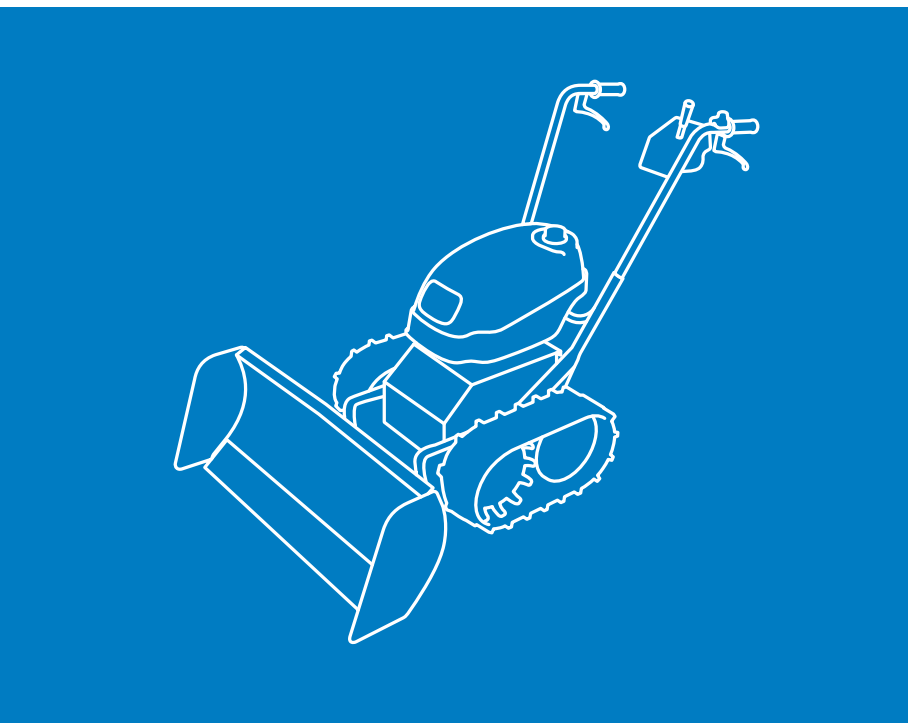
HONDA
汎用製品

# 除雪機
# SB800
# 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda 除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

・**本機は除雪以外の目的で使用しないでください。**
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
故障の原因となるばかりでなく、製品保証の対象外となる場合があります。

---

取扱説明書について

この取扱説明書は

ー本機を運転するときは、必ず携帯してください。

ー除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

ー紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

除雪機
安全規格

Honda 除雪機は、除雪機安全協議会の自主規格「歩行型ドーザー除雪機の安全規格」に適合しています。

# は　　じ　　め　　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

**安全に関する表示について**

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

**⚠危険**

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

**⚠警告**

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

**⚠注意**

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

**その他の表示**

**取扱いのポイント**

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目　　次


安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう .....4
安全ラベル .....8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう .....9
エンジンスイッチ .....11
ドレンつまみ .....11
チョークノブ・燃料コックレバー .....12
始動グリップ .....12
スロットルレバー .....13
前後進切替レバー .....13
ブレード角度切替レバー .....14

エンジンをかける前に点検しましょう ..... 15
燃料の点検 .....15
エンジンオイルの点検 .....17
ブレード、スクレーパーの点検 .....18
クローラーの点検 .....18
その他の点検 .....18

エンジンのかけかた ..... 19

運転操作のしかた ..... 22
1. ブレード角度切替方法 .....22
2. 始動 .....23
3. スロットルレバーの点検 .....23
4. 運転操作 .....24
5. 除雪のしかた .....25

除雪機の止めかた ..... 27

定期点検を行いましょう ..... 30

点検・整備のしかた ..... 31
エンジンオイルの交換 ..... 31
点火プラグの点検、調整、交換 ..... 32
クローラーの点検 ..... 33
スクレーパーの点検 ..... 34
各部の作動点検 ..... 34

運搬するときは ..... 35

長期間使用しないときの手入れ ..... 38

故障のときは ..... 41

主要諸元 ..... 42

配線図 ..... 43

# 安 全 に お 使 い い た だ く た め に

## 警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

・過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。

・この取扱説明書および除雪機に貼り付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。

・間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。

・エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」（15 ～ 17 頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。

・悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。

・適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。

・カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



# これだけはぜひ守りましょう

## 警告

作業を始める前に

・作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。

・本機の操作をおこなう場合には、必ずハンドルを持ち、中央部に位置してください。

・砂利のある区域を除雪する場合には、石はねなどに十分に注意してください。

・屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

・定められた点検を必ず行い､不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。

・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。

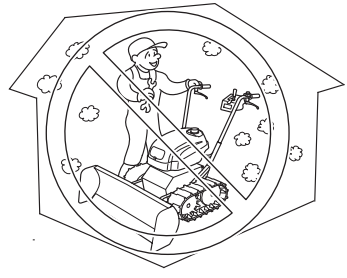
・燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。

・燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

・本機は照明が装備されていないため、夜間や暗い場所での使用はしないでください。



## 警告

作業中の注意

・回転部分に触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。

・急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるのでスロットルレバーは徐々に操作してください。

・雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。

  ・滑りやすい場所では、低速で運転してください。

  ・除雪中は、足元に注意しハンドルをしっかり握ってください。

  ・方向転換は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。

  ・後進時には、足元および後方の障害物に十分注意して、転倒したり障害物にはさまれないように運転してください。

・共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。

・除雪中障害物に当ったときはすぐにスロットルレバーを放しエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し（ 32 頁参照)、損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

・クローラーが止まってしまうような状態でスロットルレバーを握り続けないでください。エンジン、クラッチに悪影響をあたえます。

・傾斜面は横切って除雪しないでください。傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。

・作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、直ちに運転を中止し、その原因を調べてください。異常な振動や音は故障による場合があります。

・駐車をするときは平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

## 警告

作業が終ったら

・本機から離れるときには、ブレードを路面に接地させ、前後進切替レバーを “N”（中立）の位置にし、必ずエンジンスイッチを “停止” 位置にしてエンジンを止めてください。やむをえず本機を傾斜地に止める場合やトラックに積載する場合には前後進切替レバーを “前進” または “後進” に入れてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

・長期保管時には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。

・点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを “停止” 位置にし、点火プラグキャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

・作業後は、除雪部の雪を取除いて格納してください。残った雪が凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

・本機を屋内に格納するときやボディーカバーをかけるときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えてから行ってください。

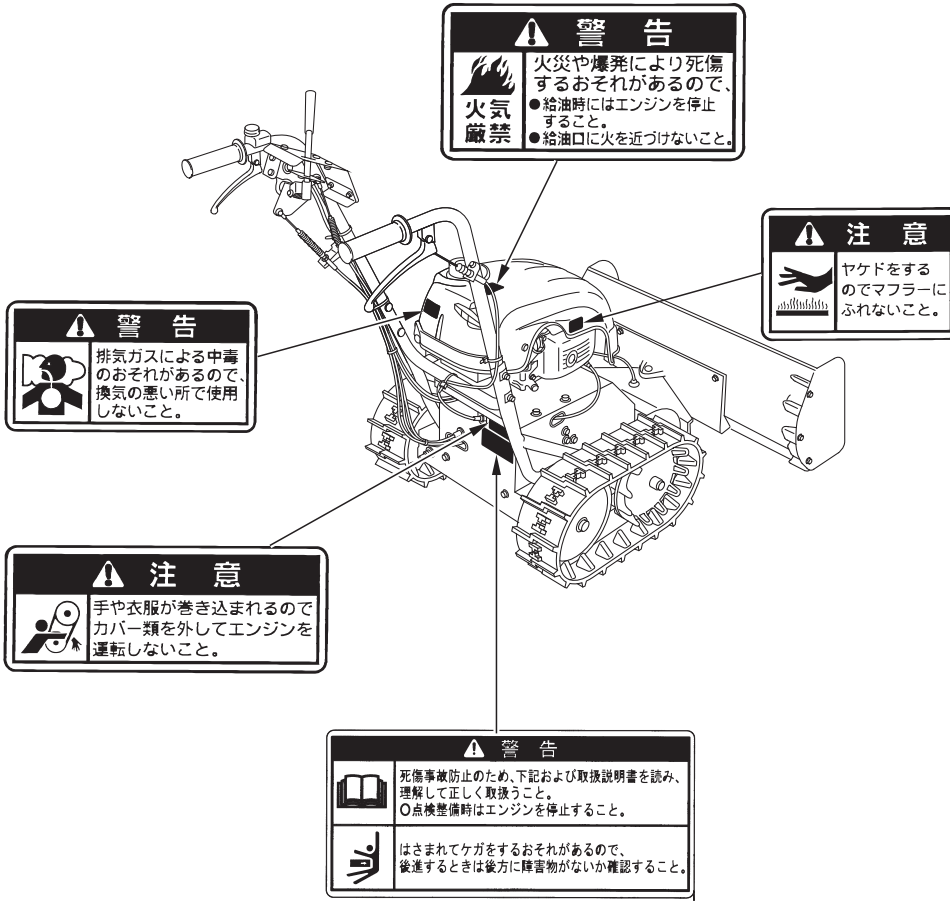
・枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

・植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

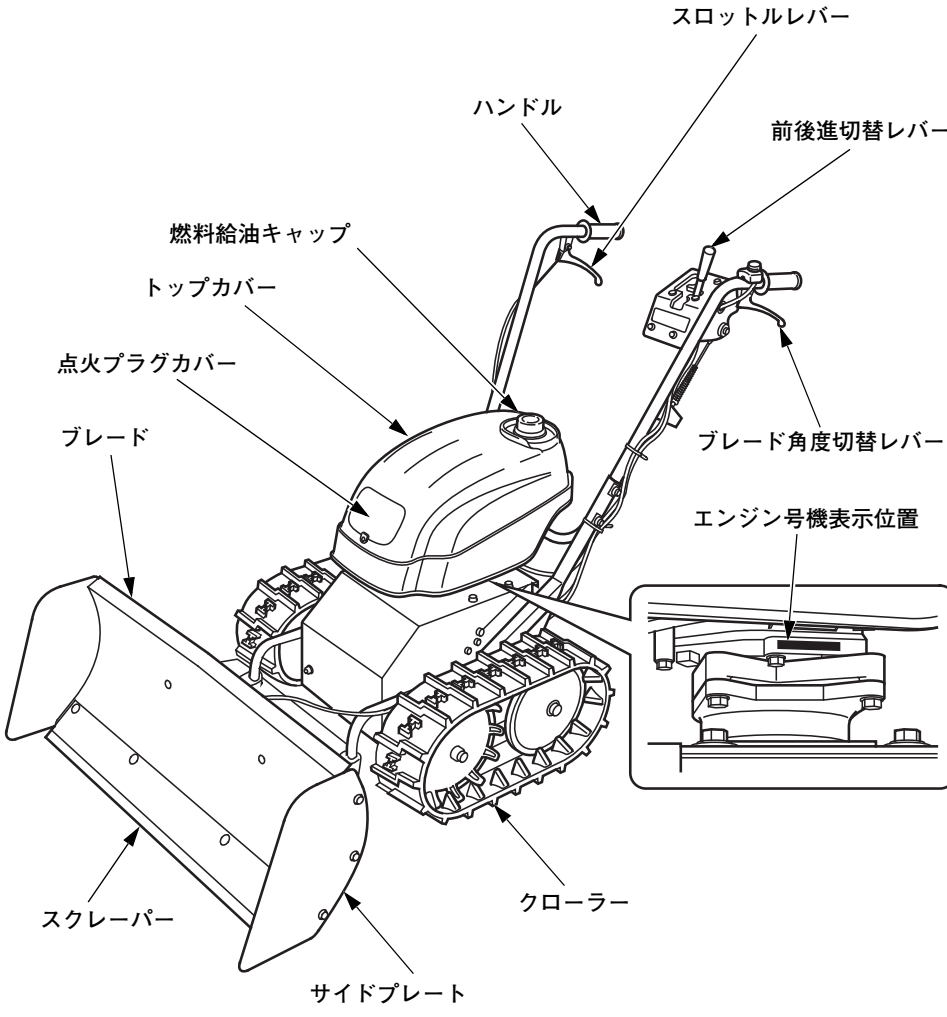
## 安全ラベル

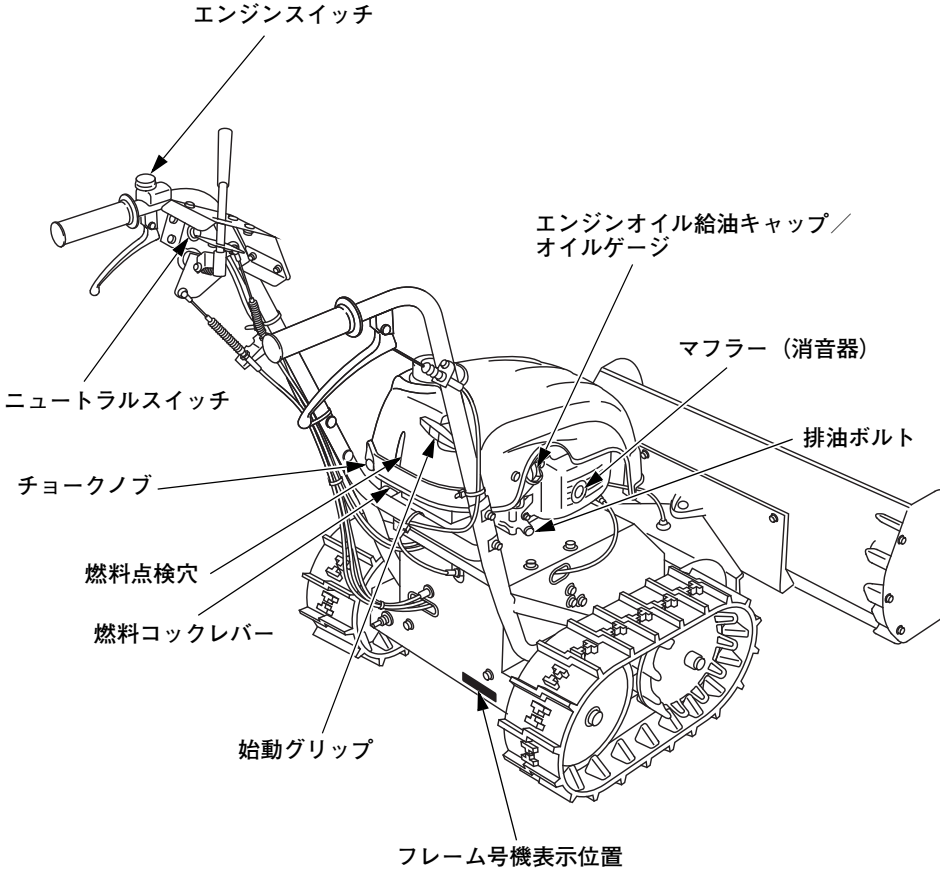
除雪機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店へお問い合わせください。



# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう



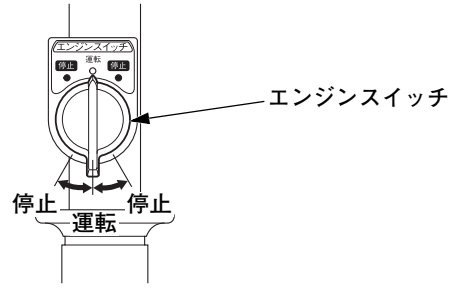

エンジンスイッチ
エンジンオイル給油キャップ／
オイルゲージ
マフラー（消音器）
ニュートラルスイッチ
排油ボルト
チョークノブ
燃料点検穴
燃料コックレバー
始動グリップ
フレーム号機表示位置

## エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止するときに操作します。

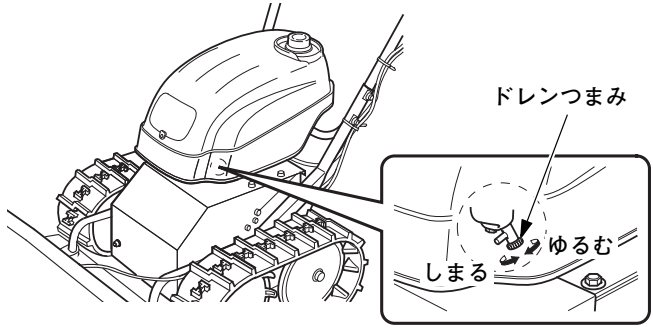
**停止**：エンジンを停止するときの位置です。

**運転**：エンジン運転時の位置です。




## ドレンつまみ

ドレンつまみは燃料を抜くときに操作します。

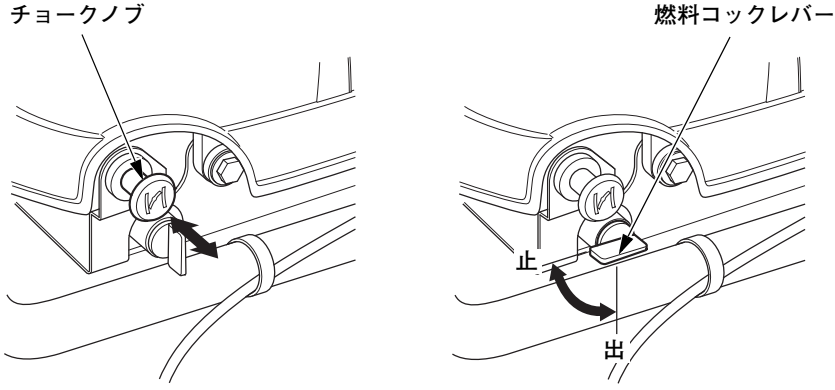


## チョークノブ・燃料コックレバー

チョークノブはエンジンが冷えているときに操作します。

燃料コックレバーは、燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に “**止**” “**出**” の位置に合わせます。

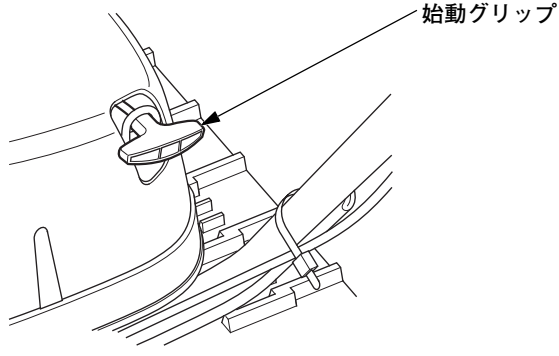



### ⚠警告

本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

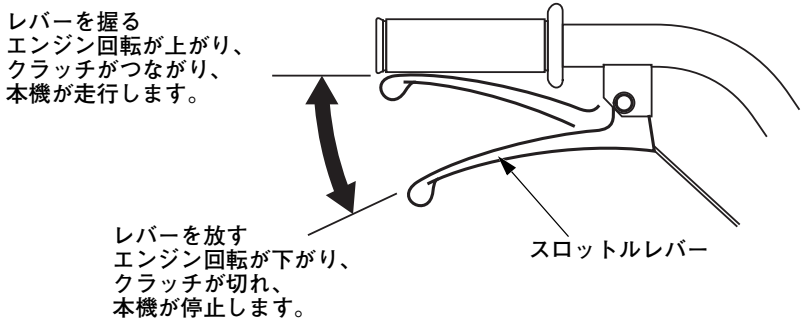
## 始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



## スロットルレバー

エンジン回転を調整し、同時に車軸の回転、停止を行う装置です。



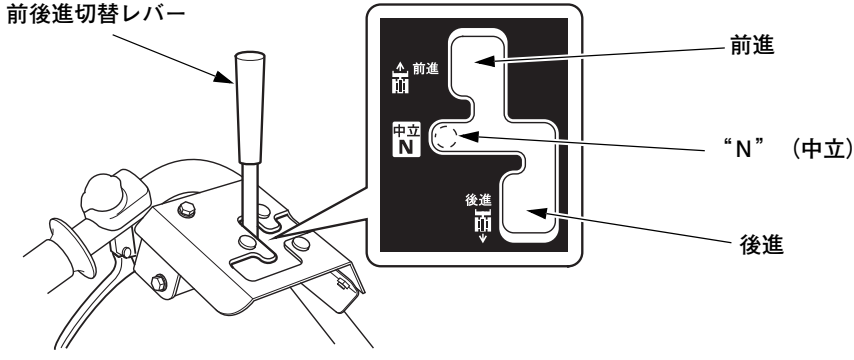

## 前後進切替レバー

除雪機を始動、運転するときに操作します。

**エンジンを始動するときは**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ “N”（**中立**）の位置にします。

**前進するときは**・・・・・・“N”（**中立**）の位置から “**前進**” の位置に動かします。

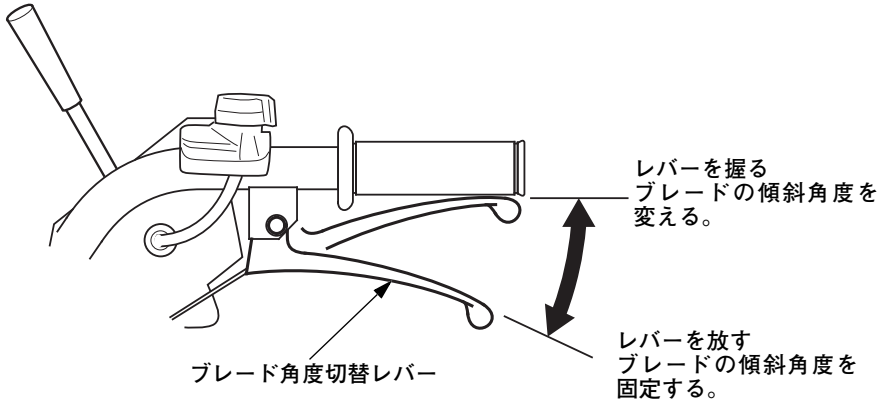
**後進するときは**・・・・・・“N”（**中立**）の位置から “**後進**” の位置に動かします。




本機をやむをえず傾斜地に止める場合やトラックに積載する場合には前後進切替レバーを “**前進**” または “**後進**” に入れて本機が動かないようにしてください。

## ブレード角度切替レバー

ブレードの傾斜（左右方向）角度を切替えるときに操作します。
ブレード傾斜角度は、中央（0°）、左（30°）、右（30°）の３パターンとなります。



# エンジンをかける前に点検しましょう

**⚠警告**

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

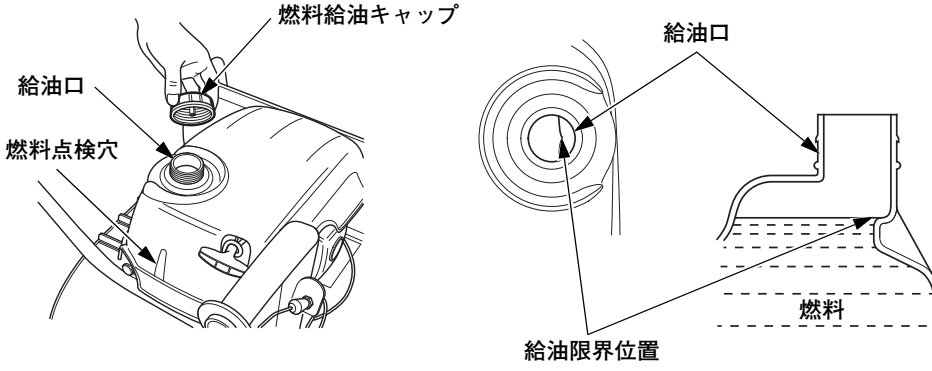
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

## 燃料の点検

### 点検

本機を水平にして燃料点検穴から、燃料の量を確認します。

少ない場合は燃料給油キャップを外し、給油限界位置（下図）を超えないように補給してください。




### 補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

・補給は燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給してください。

・補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

## ⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

・エンジンを停止してください。

・屋外の換気の良い場所で行ってください。

・火気を近づけないでください。

・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを、負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。

・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

・ガソリンは口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

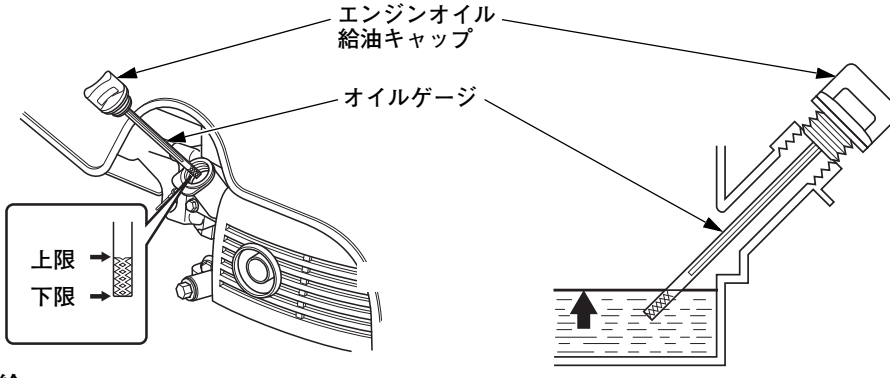
**取扱いのポイント**

- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

## エンジンオイルの点検

### 点検

本機を水平にして、エンジンオイル給油キャップを外します。エンジンオイル給油キャップをねじこまず差し込んで、オイルゲージの上限までオイルがあることを確認してください。




### 補給

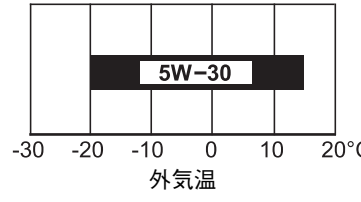
☆油面が下限に近いときには新しいオイルを上限まで補給します。

☆汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は 31 頁参照)

推奨オイル：

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。




**取扱いのポイント**

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

## ブレード、スクレーパーの点検

・亀裂、損傷がないこと
・ブレードに障害物がないこと

## クローラーの点検

・亀裂、損傷がないこと
・摩耗していないこと

## その他の点検

・除雪部（ブレード）に障害物がないことを点検してください。
・スクレーパーの点検（34 頁参照）
・次の点検も忘れずに行ってください。

1.各部の締付け …… ゆるみ、ガタがないこと
2.各種スイッチおよび各部の作動状態 …… 正しく作動すること
3.前回使用時の異常個所 …… 整備されていること

その他の異常を感じたら、直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

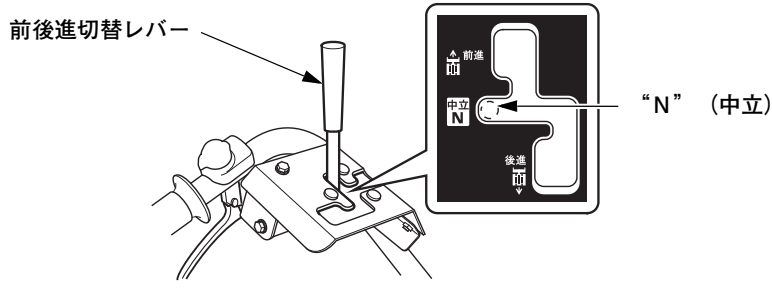
# エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

## ⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で前後進切替レバーを “N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。

1.前後進切替レバーを必ず “N”（中立）の位置にしてください。

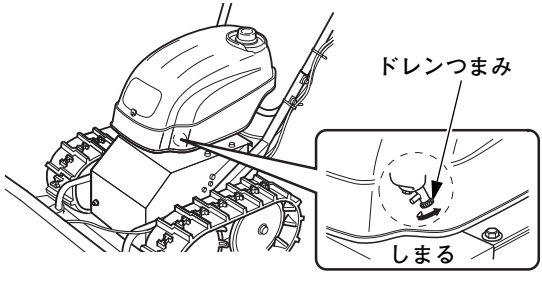
“N”（中立）の位置にしないと、ニュートラルスイッチがはたらいてエンジンが始動できません。

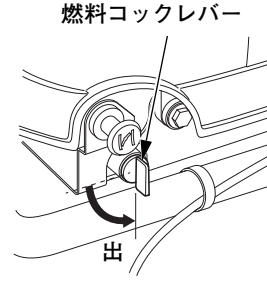



2.ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。

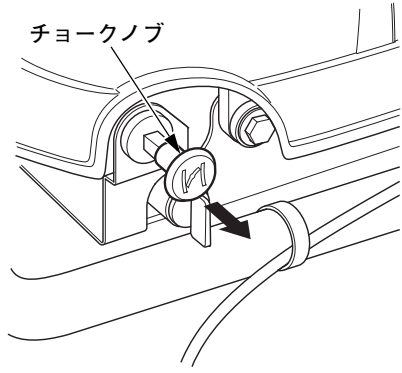
## ⚠警告

ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。

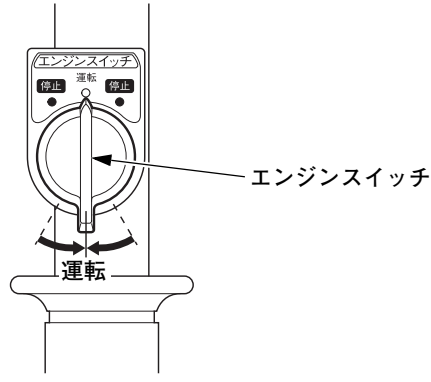


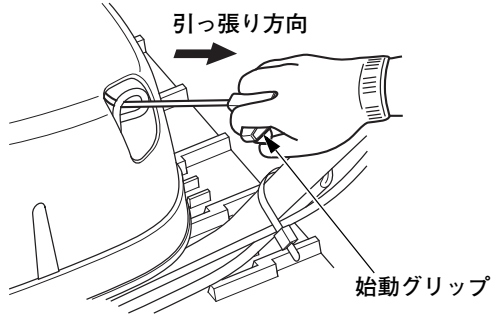
3. エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱいに引いてください。
エンジンが暖まっているときは、チョークノブは操作しないでください。




4. エンジンスイッチを “**運転**” の位置に合わせます。



5.始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。
始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



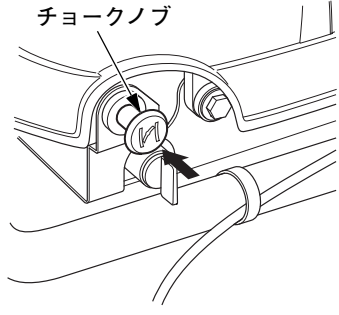

**⚠注意**

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

**取扱いのポイント**

- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。トップカバーを破損することがありますので静かに元の位置にもどしてください。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6.始動後、暖機運転を行います。
チョークノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョークノブを徐々に押し戻します。



# 運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”（4 頁参照）の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

**⚠注意**

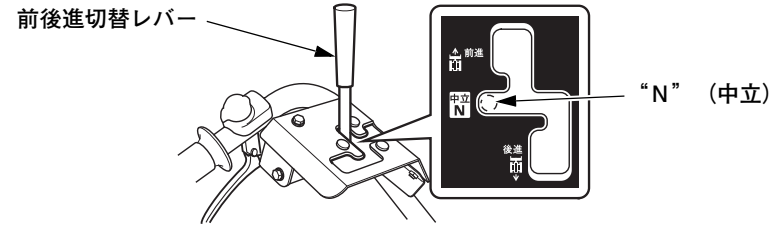
- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。
- 本機の運転操作中は、ブレード角度切替レバーを操作しないでください。

**取扱いのポイント**

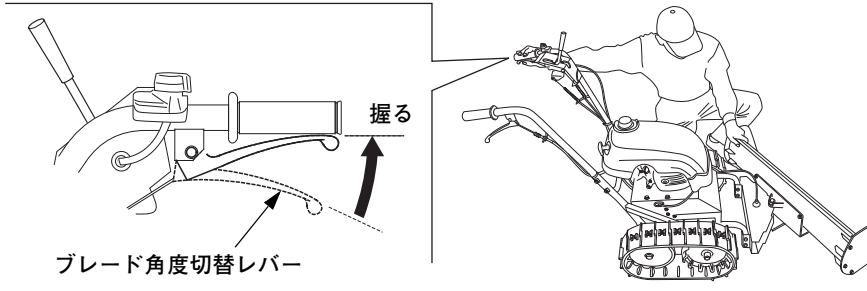
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

## 1. ブレード角度切替方法

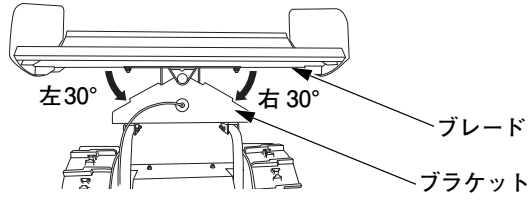
－ 1. 前後切替レバーを “N”（中立）の位置にします。



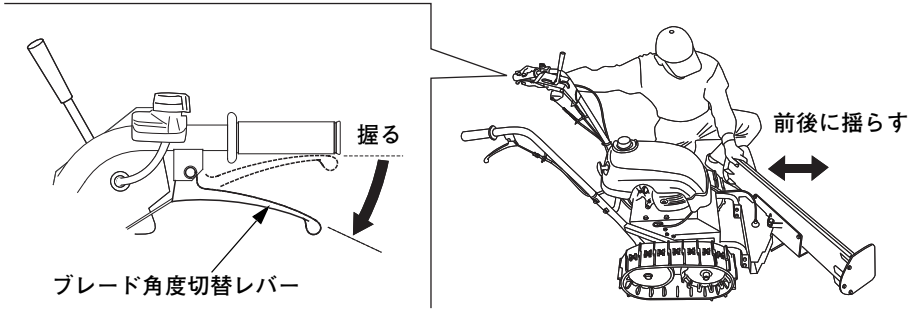

－ 2. ブレード角度切替レバーをハンドルグリップに当たるまで握ってから、ブレードの傾斜角度を手動で切替えてください。
ブレード傾斜角度は、中央（0°）、左（30°）、右（30°）の 3 パターンとなります。



ブレードの傾斜角度を左右 30° にする場合は、ブレードがブラケットに当たるまで回転させてください。




－ 3. ブレード角度切替レバーを放し、手でブレードを前後に揺らして、ブレードが確実に固定されていることを確認してください。

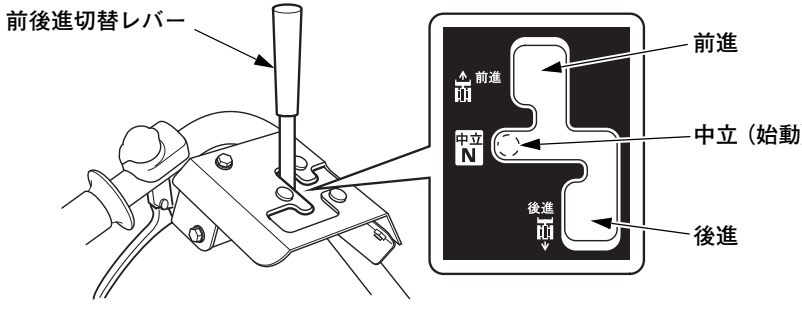



## 2. 始動

始動については 19 頁～ 21 頁を参照してください。

## 3. スロットルレバーの点検

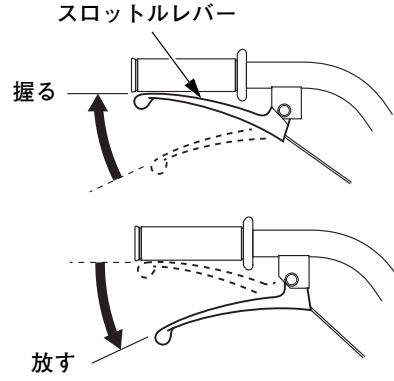
－ 1. 前後進切替レバーを “**前進**” または “**後進**” の位置にします。



－2. スロットルレバーを操作することにより、本機の走行および停止が行えます。
スロットルレバーをゆっくり握って本機が動き始めたらレバーを放してください。
レバーを放してすぐに本機が停止することを確認します。
この作業を “前進” と “後進” で行ってください。

**レバーを握る→** エンジン回転が上がり、クラッチがつながり、本機が走行します。

**レバーを放す→** エンジン回転が下がり、クラッチが切れ、本機が停止します。




## ⚠注意

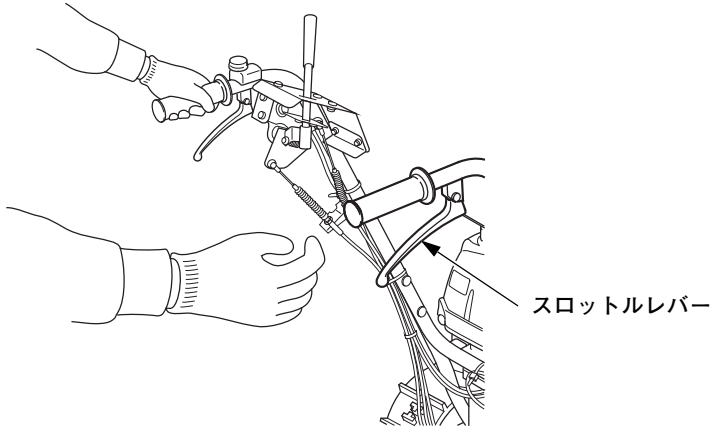
- スロットルレバーを握ったままで、前後進切替レバーの切替を行うと、ケガや故障の原因となります。
- 傾斜地で、前後進切替レバーを “N”（中立）にすると、本機が空走することがあるので十分気をつけてください。

### 4. 運転操作

スロットルレバーをゆっくり握って本機が動き始めたらそのままレバーを完全に握って除雪作業をしてください。

- スロットルレバーは徐々に握ることにより、本機をゆっくりと動かすことができます。本機が動き始めたら、スロットルレバーは完全に握ってください。クラッチが十分につながらないことがあります。
- 本機を旋回させる際には、スロットルレバーを少し握ってください、スムーズに旋回させることができます。
- 前後進の切替をする場合は、スロットルレバーを完全に放し、本機が停止してから前後進切替レバーを切替てください。
- エンジンをかけずに本機を押し引きする際は、前後進切替レバーを “N”（中立）の位置にすると動かしやすくなります。ただし、低温時などミッションオイルの粘度が高くなっているときは、重いこともあります。

－ 3. 走行を停止する場合はスロットルレバーを完全に放してください。
その際に本機が完全に停止したことを確認してください。

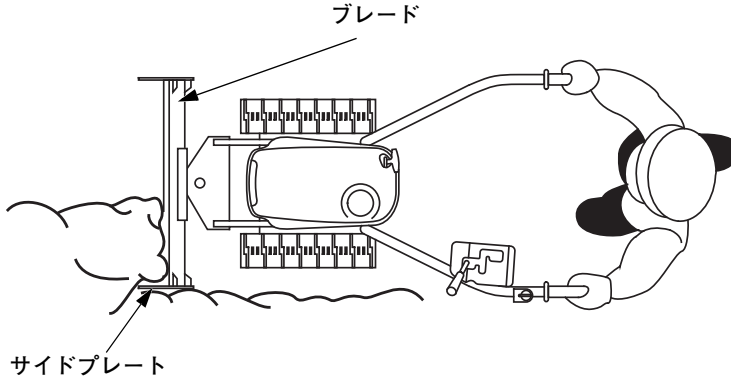



## 5. 除雪のしかた

除雪作業はクローラーをスリップ（空転）させずに行うことが重要です。そのためには次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

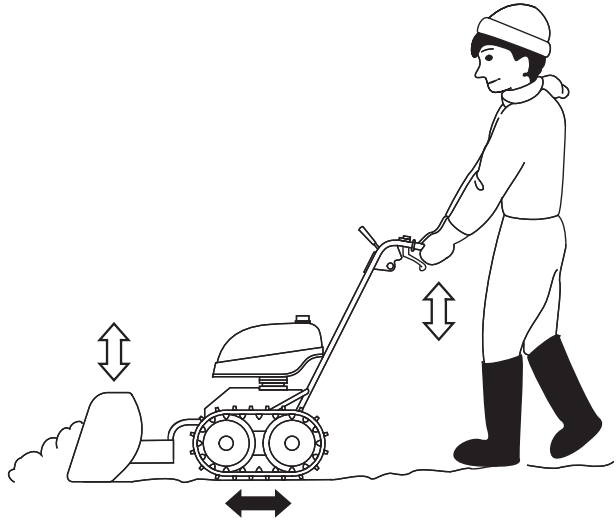
・除雪幅を狭くする方法

深い雪や固くなった雪の場合は、ブレードに掛かる雪幅を狭くして除雪作業を行ってください。またブレードのサイドプレートを使って雪を切り込んで少しずつ除雪してください。



・前後進除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時には、ブレードにたまった雪が多いと進みにくくなることがあります。ハンドルを少し押し下げ、ブレードの高さを調整しながら前、後進を繰り返して除雪してください。



・ハンドルを下に押し付ける方法

ブレードに雪がたまった状態で、クローラーがスリップ（空転）してしまったような場合は、ハンドルに下方向の力を加えて押し付けることで、クローラーに荷重が掛かり、駆動力を増加させることができます。ただし、クローラーが停止してしまうような場合は、負荷が重すぎるので、それ以上押し続けることは避けてください。

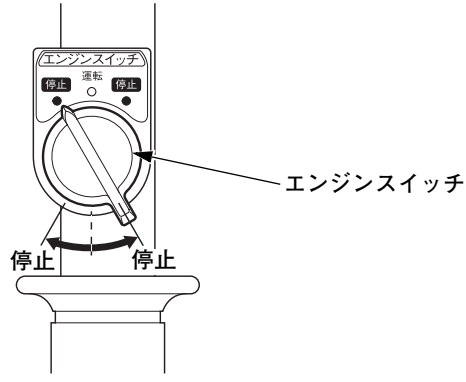
# 除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

**・緊急にエンジンを停止する場合**

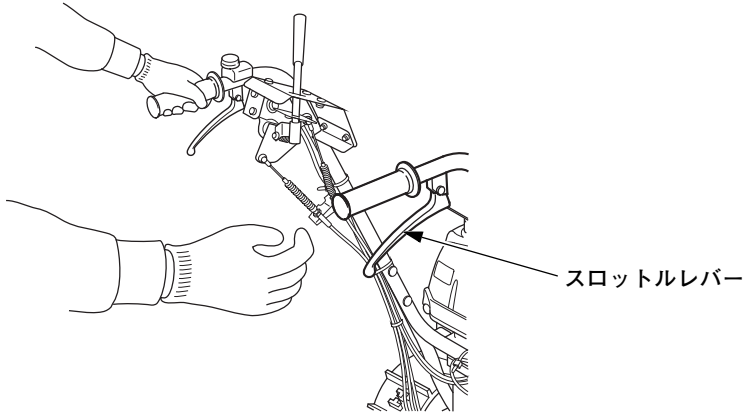
エンジンスイッチを “**停止**” の位置にします。



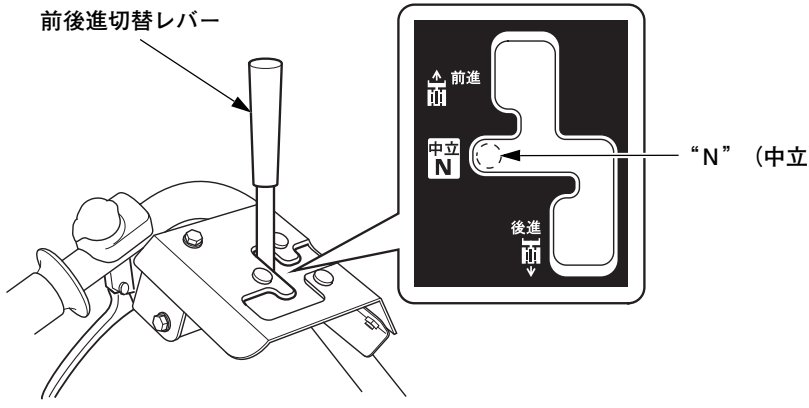

☆エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に前後進切替レバーを “**N**”（**中立**）の位置にしてください。

**・通常停止の場合**

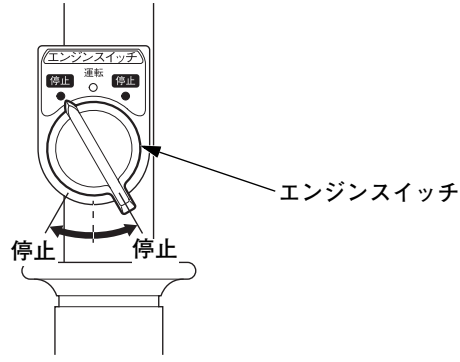
1.スロットルレバーから手を放します。



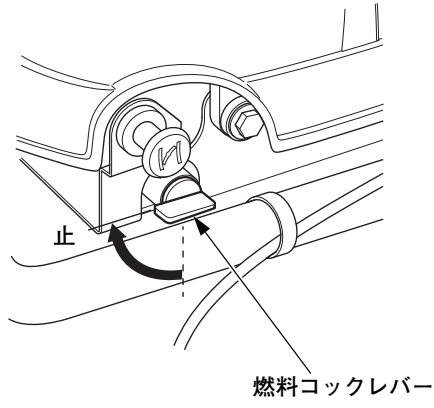

2.前後進切替レバーを “N”（中立）の位置にします。



3.エンジンスイッチを “**停止**” の位置にします。




4.燃料コックレバーを “**止**” の位置にします。




**取扱いのポイント**

作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

# 定 期 点 検 を 行 い ま し ょ う

お買いあげいただきました除雪機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

## 定期点検表

| 点検時期（1）<br>点検項目 | | 作業前点検 | シーズン毎 | | 1月目又は初回20時間運転目 | 4年毎又は100時間運転毎 | 4年毎又は300時間運転毎 | 参照頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 除雪時期初め | 除雪時期終わり | | | | |
| エンジンオイル | 点検、補給 | ○ | | | | | | 17 |
| | 交換 | | ○（5） | | ○（5） | ○ | | 31 |
| 走行ミッションオイル | 点検、補給 | | | | | | ○（2） | — |
| 点火プラグ | 点検、調整 | | ○ | | | | | 32 |
| | 交換 | | | | | | ○ | 32 |
| 走行ベルト | 点検 | | ○（2）（4）（5） | | | | | — |
| クローラー | 点検、調整 | | ○ | | | | | 33 |
| スクレーパー | 点検 | ○ | ○<br>必要に応じ交換（2）（5） | | | | | 34 |
| チェンジケーブル | 点検、調整 | | ○（2） | | | | | — |
| スロットルケーブル | 点検、調整 | | ○（2） | | | | | — |
| ブレーキケーブル | 点検、調整 | | ○（2） | | | | | — |
| ブレーキシュー | 点検 | | ○（2） | | | | | — |
| クラッチシュー | 点検 | | | | | ○（2） | | — |
| 各部締め付け部点検 | 点検 | ○ | | | | | | 18 |
| 各種スイッチの作動 | 点検 | ○ | | | | | | 18 |
| スロットルレバー | 点検 | ○ | | | | | | 23 |
| 燃料タンク、キャブレターの燃料 | 抜き | | | ○ | | | | 39 |
| 格納時各部防錆、給油 | 塗布、給油 | | | ○ | | | | 40 |
| エンジン回転数（無負荷最低・最高） | 点検、調整 | | ○（2） | | | | | — |
| 吸入、排気弁すき間 | 点検、調整 | | ○（2） | | | | | — |
| 燃焼室 | 清掃 | 300時間運転毎（2）（3） | | | | | | — |
| 燃料タンク、ろ過網 | 清掃 | | | ○（2） | | | | — |
| 燃料チューブ | 点検 | 2年毎（必要なら交換）（2） | | | | | | — |

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。

(3) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

(4) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。

(5) 消耗部品であり、使用条件や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換して下さい。

# 点　検　・　整　備　の　し　か　た

**⚠警告**

- 点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを “停止” 位置にし、点火プラグキャップを取外して行ってください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

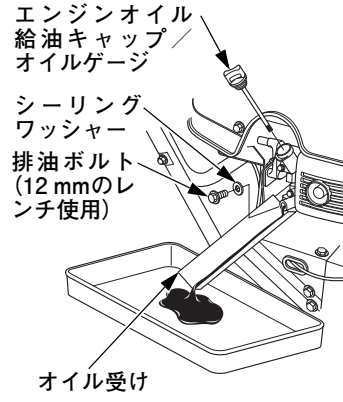
## エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

《オイル容量》0.30 L




**⚠警告**

- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラー等に付着すると火災の原因となります。

《交換のしかた》

1. 厚紙などで図のようなオイル受けを用意し、セットしてください。
2. エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
3. オイルが抜けたら新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジンオイルをエンジンオイル給油キャップのオイルゲージ上限まで注入します。（17 頁参照）
5. 注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。

**取扱いのポイント**

交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。

## 点火プラグの点検、調整、交換

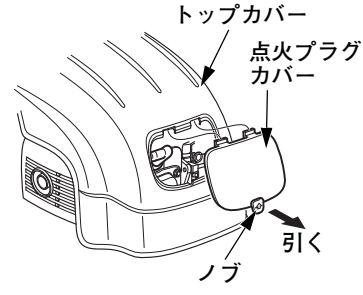
**⚠注意**

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。
ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《指定プラグ》

C4HSB (NGK)　U14FS-UB (DENSO)




清掃のしかた

1. エンジンを停止し、トップカバーの前面にある点火プラグカバーのノブを引っぱって外し、点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナーがないときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。
4. 点検調整後、点火プラグ／点火プラグキャップを確実に取付けます。
5. トップカバーの点火プラグカバーを取付けます。

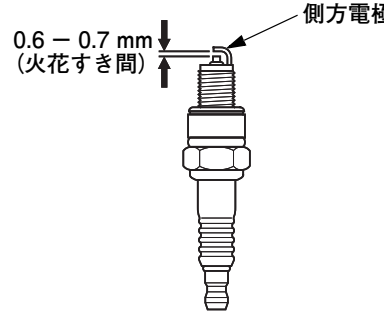



《調整》

調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6 ー 0.7 mm



**取扱いのポイント**

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検、調整後は点火プラグキャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

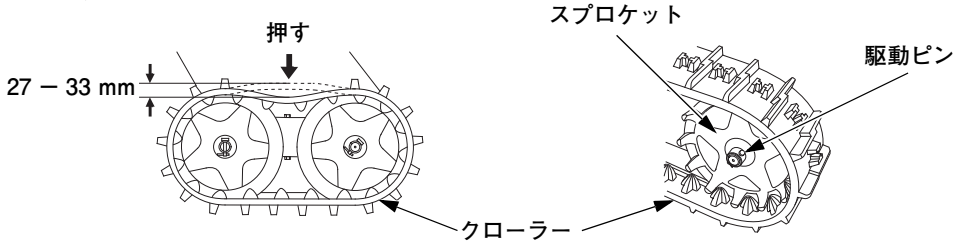
## クローラーの点検

クローラーの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。またスプロケットの駆動ピンが破損、脱落しているとクローラーが正常に動かず走行できなくなることもあります。

### 点検のしかた

クローラー中央部を強く（約 147 N（15 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。確認後、クローラーの張りが適正寸法になかったり、駆動ピンが破損、脱落している場合には調整、または交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。

適正寸法：27 － 33 mm




**取扱いのポイント**

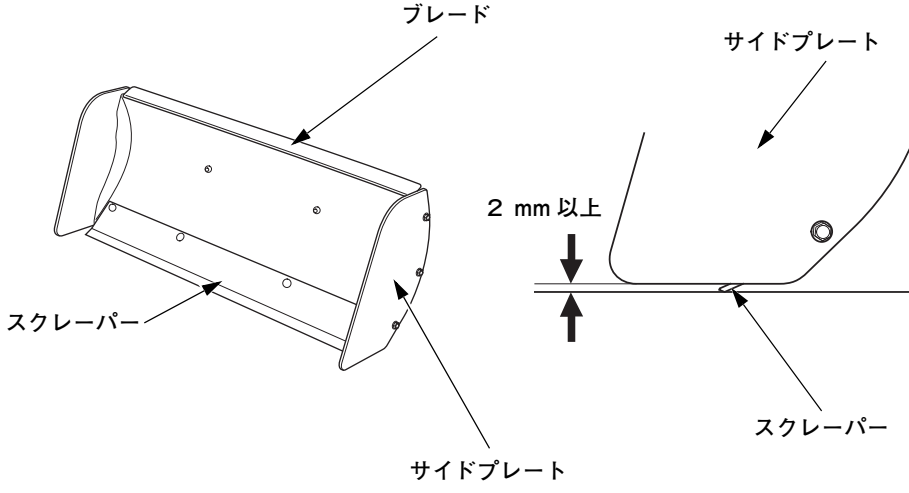
クローラーゴムが凍結しているときは正しい張り点検ができません。
必ず凍結を取り除いてから点検してください。

## スクレーパーの点検

スクレーパーが摩耗してしまうとサイドプレートが路面に接地すると同時にブレード本体が路面と干渉し、摩耗して強度が低下します。

### 点検のしかた

本機を平坦な場所に置き、スクレーパーを接地させ、サイドプレートと地面との隙間を確認してください。隙間が2 mm 以下の場合は調整または交換が必要ですのでお買いあげ販売店、またはサービス店に依頼してください。




## 各部の作動点検

年1回除雪時期の初めに定期点検表（30 頁参照）に従い、点検を行ってください。また、除雪作業前には次の点検を行ってください。

- ・エンジンオイルの点検
- ・各部締付の点検
- ・各種スイッチの作動の点検
- ・可動部分の作動の点検

# 運　搬　す　る　と　き　は

## アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

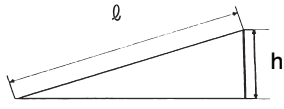
**⚠警告**

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

**《積み降ろしをする前に》**

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：64 kg

3. 下の表を目安に傾斜角度が 15 度以下になるようなアユミ板を選んでください。




| アユミ板の長さ（ℓ） | 2.5 m | 3.08 m | 3.5 m |
|---|---|---|---|
| 地面からアユミ板までの高さ（h） | 50 cm | 60 cm | 70 cm |

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“空” に近いとエンストしてしまうことがあります。

**《手順》**

(1) エンジンを始動し 2 ～ 3 分暖機運転を行ってください。（19 頁参照）
(2) アユミ板の幅をクローラーの幅に合わせます。
(3) ハンドルを押し下げて、ブレードが接地しない位置まで上げます。

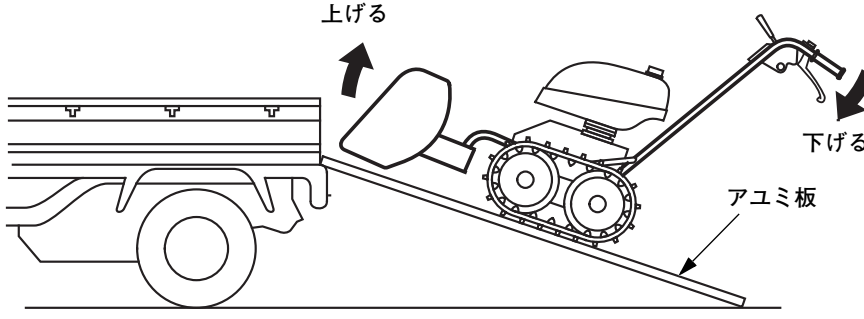
(4) 前後進切替レバーを “**前進**” または “**後進**” に入れ、スロットルレバーを少し握り本機をゆっくり動かします。

(5) 除雪部が当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

(6) 本機が完全に荷台に乗りましたらエンジンを止め、前後進切替レバーを “**前進**” または “**後進**” に入れて本機が動かないようにしてください。

### ⚠注意

アユミ板の上を移動途中でのエンジン停止は極力させないでください。万一エンジンが停止した場合は、本機のハンドルをしっかり支えながら、前後進切替レバーを “N”（中立）にします。その際、本機が空走する事がありますので、十分注意してゆっくりアユミ板から降りてください。エンジンの再始動は必ず平坦なところで行ってください。(19 頁参照)

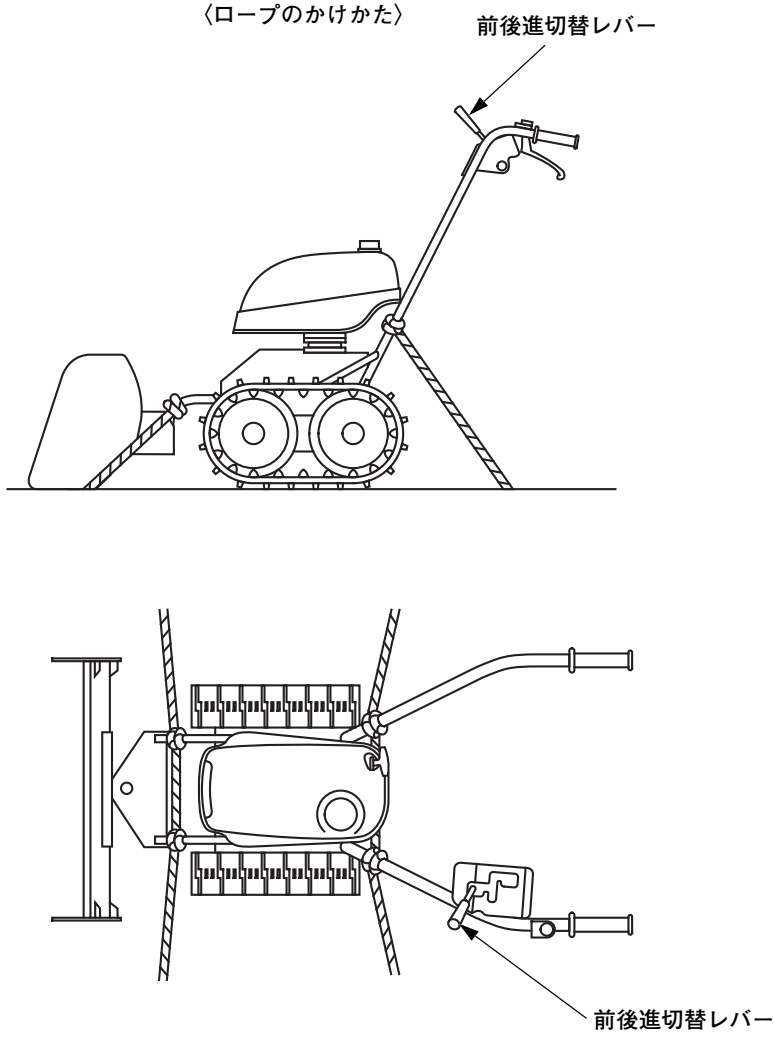



### ⚠警告

本機を運搬するときは、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

## ロープによる固定方法

トラック等に積載したら、エンジン　スイッチを “**停止**” の位置にしてエンジンを止め、燃料コックレバーを “**止**” の位置にしてください。その後、前後進切替レバーを “**前進**” または “**後進**” の位置にしたまま、本機の下図の箇所をケーブルやハーネスを避けてロープ等で固定してください。



# 長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

・燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

**⚠警告**

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、燃料付近でのタバコの喫煙や、炎など火気を近づけないでください。

・火気を近づけないでください。

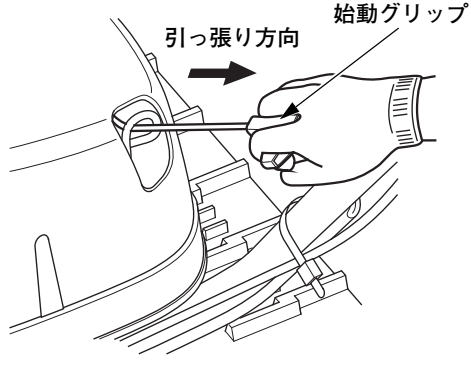
・身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料に引火し、ヤケドを負うおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に触れると､静電気を放電することができます。

・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

**取扱いのポイント**

次回使用時は新鮮な燃料を補給してください。

1.保管するときは、水平な位置に本機を止め、前後進切替レバーを “N”（中立）にしてエンジンスイッチを “停止” 位置にしてください。
始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。

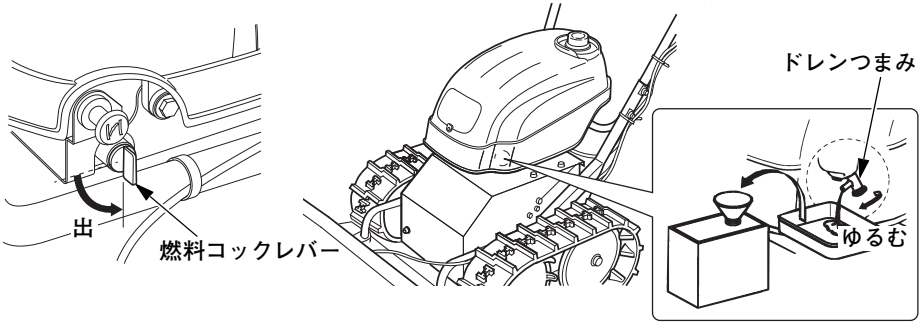


2.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

**《抜きかた》**

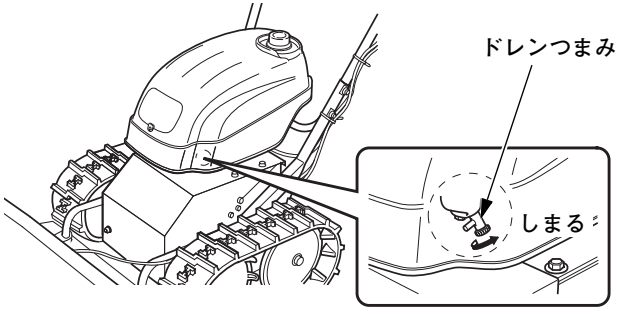
－ 1. 燃料コックレバーを “**出**” に合わせます。

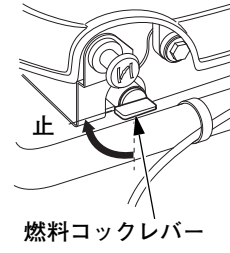
－ 2. キャブレターのドレンつまみをゆるめて燃料を容器に受けます。




－ 3. 完全にぬけたらドレンつまみを確実に締付けます。

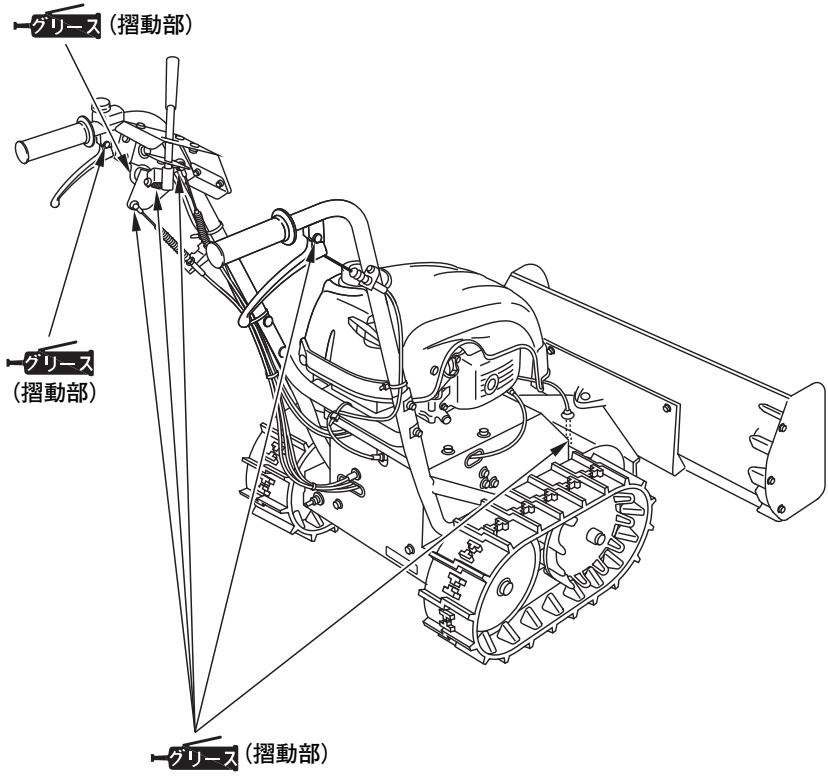
－ 4. 燃料コックレバーを “**止**” にします。



3.保管時の給油箇所

水気、汚れをふき取り、乾燥後に回転部および摺動部にオイルを注油してください。
ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。



# 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、早めにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。毎年シーズン前に点検を受けましょう。

**始動しないときは、次の点を確かめましょう。**

1.始動方法は、取扱説明書どおりですか？（19 頁参照）

2.燃料はありますか？（15 頁参照）

3.燃料コックレバーは “出” の位置になっていますか？（19 頁参照）

4.エンジンオイルは規定量ありますか？（17 頁参照）

5.点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（32 頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

# 主　　要　　諸　　元

| | |
|---|---|
| 名　　称 | SB800 |
| タ　イ　プ | JVT |

エ　ン　ジ　ン

| | |
|---|---|
| 名　　称 | GXV50T |
| 最大出力／回転速度<br>(SAEJ1349 に準拠＊) | 1.3 kW (1.8 PS)/5,000 rpm |
| 排　　気　　量 | 49.4 $cm^3$ |
| 内　径　×　行　程 | 41.8 × 36.0 mm |
| 始　動　方　式 | リコイルスタータ式 |
| 点　火　方　式 | トランジスタ式マグネト点火 |
| オ　イ　ル　容　量 | 0.30 L |
| 燃料タンク容量 | 1.0 L |
| 点　火　プ　ラ　グ | C4HSB (NGK)<br>U14FS-UB (DENSO) |

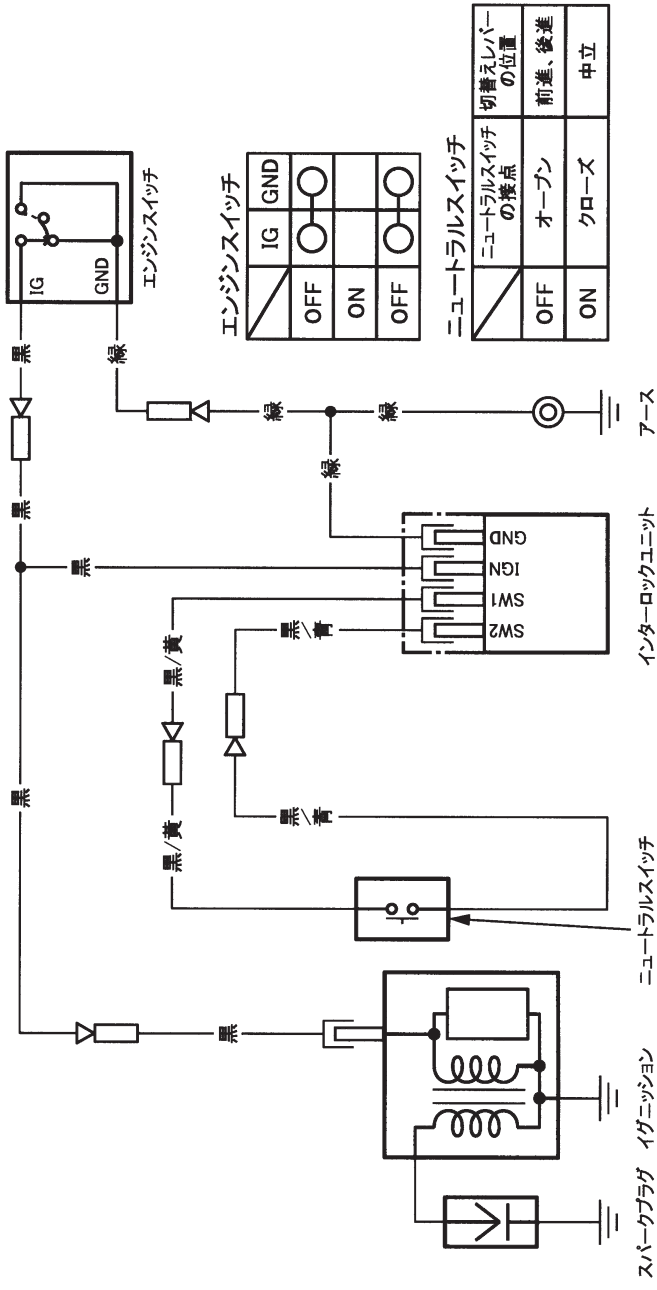
フ　レ　ー　ム

| | |
|---|---|
| 全　　長 | 1,425 mm ( 傾斜　0° )、1,595mm ( 傾斜 30° ) |
| 全　　幅 | 820 mm ( 傾斜　0° )、825mm ( 傾斜 30° ) |
| 全　　高 | 1,010 mm |
| 乾燥質量（重量） | 62 kg |
| 除　　雪　　幅 | 800 mm |
| 除　　雪　　高 | 330 mm |
| ブレード角度 | 左 30° ・0° ・右 30° |

＊ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 5,000 rpm （エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

# 配　線　図


エンジンスイッチ
IG
GND
黒
緑
エンジンスイッチ
IG
GND
OFF
ON
OFF
ニュートラルスイッチ
ニュートラルスイッチの接点
切書えレバーの位置
OFF
オープン
前進、後進
ON
クローズ
中立
黒
黒
黒
緑
緑
緑
アース
GND
IGN
SW1
SW2
インターロックユニット
黒/青
黒/黄
黒/青
黒/黄
ニュートラルスイッチ
黒
イグニッションコイル
スパークプラグ

メ　　モ

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

**販売店**

**TEL**

**お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。**

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00

〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

（1）製品名、タイプ名
（2）ご購入年月日
（3）販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30V37610
00X30-V37-6100

XXX.2016.XX
© 2017 本田技研工業株式会社